

獣害対策に

# オーナー制度を活かす



捕れたイノシシ、  
シカをみんなで山分け  
罨オーナー制度

安田大介（岐阜県郡上市・猪鹿庁合同会社）



## 猟師の6次産業化で里山づくり

岐阜県のほぼ中央にある郡上市ぐじょうし。緑が豊かで、美しい川の多いこの中山間地域が里山保全活動組織「猪鹿庁いのしかちょう」の活動拠点です。

もともとはNPO法人「メタセコイアの森の仲間たち」の事業の一つである里山保全事業として、2009年から活動



捕獲したシカに止め刺しをした筆者

を開始。そこから生まれた猪鹿庁は、狩猟を柱として里山づくりに挑戦するメンバー10人からなり、ツアーや獣肉加工部門を17年に合同会社化しました。猟師がイノシシやシカを獲って、解体から精肉の販売まで行なう「猟師の6次産業化」と地元じよんの里山保全の二つを目的とし、近年は、狩猟やジビエの魅力をより多くの人たちに伝えるイベントの企画・運営に



2018年の罾オーナー制度の募集案内  
猪鹿庁 [http://inoshika-tour.tumblr.com/2018\\_wana-owner](http://inoshika-tour.tumblr.com/2018_wana-owner)

力を入れていきます。

メンバーのほとんどが他県からの移住者で、当初、狩猟の経験者はいませんでした。その後、私を含め4人が狩猟免許を取得。ヨソモノの立場としては、地域にすでにある仕事を奪うのではなく、地元の人がやらないような新しい仕事をつくり出したいと考えています。そして微力であっても、自分たちの活動が、好きな郡上の里山を守ることにつながればと思います。

### オーナー制なら参加しやすい

猪鹿庁では、獣害対策の担い手の育成として、すでに狩猟免許を持っている人やこれから免許を取って猟師になりたい人に向けて、銃猟やワナ猟など狩猟技術を学べる講座を実施しています。また、「バーベキュー検定」とジビエキャンプを組み合わせたイベントや「皮なめし講座」「ジビエ婚活」、全国のシシ肉を食べ比べる「日本猪祭り」など、様々な企画に取り組んできました。

猟師だけをターゲットにしないのは、より多くの人に狩猟とジビエの魅力を知ってほしいのと獣害対策の現状を発信し

たいからです。しかし、こうした講座やイベントに参加したくても、地理的、時間的な理由から二の足を踏んでいる人たちもいると思います。遠隔地の人でも、猪鹿庁の里山保全活動に何かしら関わってもらったり、応援してもらえれば仕組まないか悩んでいました。

そんなとき、以前から「猟師と漁師の里山保全プロジェクト」で交流している三重県・伊勢志摩和具漁港の「伊勢海老刺し網オーナー制度」を知りました。これは1口1万5000円で刺し網のオーナーを募集し、網漁の解禁日に捕れた伊勢海老をオーナー網元で山分けするというものです。この仕組みなら、家にいながら誰でも参加できる。この制度をシカやイノシシでも実施してみようとメンバー間で話したのが、昨秋始めた「罾オーナー制度」のきっかけです。

### 1口1万円で募集、不猟時の補償も

具体的なしくみは以下の通りです。まず、1口1万円（最大1人4口まで）で罾オーナーを30口募集。オーナーに代わって、猪鹿庁の猟師が大和地区内の山にくりくりワナ30基を仕掛け、シカやイノシ